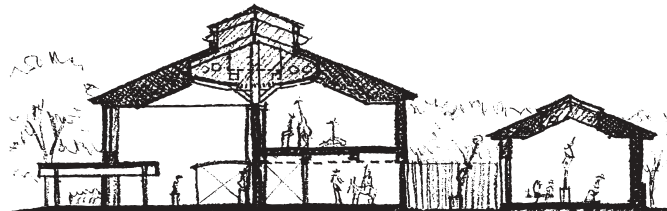




あさご芸術の森美術館
—淀井敏夫記念館—

2017/12
第56号

美術館だより
友の会だより



淀井敏夫「伏す」(1953年)／ブロンズ／H14.5×W37.5×D14cm

人体のもつ面白さを追求した作品。

第6回

あさごアートコンペティション

ASAGO ART COMPETITION 2017

岩崎順一さんの「君は飛んだか?Ⅲ」が大賞作品に決定しました。

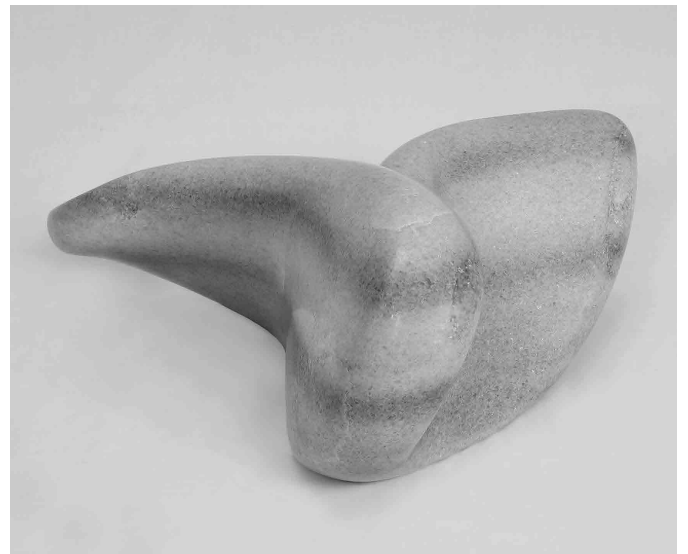
彫刻の全国公募展「第6回あさごアートコンペティション(A.A.C.)入賞・入選マケット展」を9月16日(土)～10月29日(日)、開催しました。全国17都府県の36人から37点の応募があり、7人の審査員によって大賞や優秀賞など、厳選された22点を展示しました。若干点数は減ったものの、このA.A.C.は、「UBEビエンナーレ 現代日本彫刻展」などほかの全国公募展にも勝るとも劣らない内容である、と評価されています。

A.A.C.は、これまでの「朝来2001野外彫刻展 in 多々良木」(1994～2001年)や「あさご芸術の森大賞展」(2002～11年)の基本理念を引き継ぎ、2012年から実施しています。近現代の洋画壇や彫刻界に大きな足跡を残した逸材を輩出している朝来市ですが、先人たちの功績をたたえ、築き上げてきた豊かな文化的土壌を後世に伝えようと、芸術を軸にした、より良い生活環境づくりを目指しつつ、進取気鋭の、また、意欲的な創作活動を続ける作家を支援しようというのが目的です。

第6回となる今年は、第2、4回と同様、「あさご芸術の森」に恒久設置する野外彫刻をマケット(模型)で募集しました。テーマは「異空間:遊び心・こども心」。優れた造形テクニックや表現力、多様な素材に加え、作家の制作意図が明快な作品が見られましたが、一方、募集趣旨とかけ離れた作品もあったように思われます。

審査員が言っていますように、設置場所(自然)と作品との融合、あるいは人と作品との関係性が重要で、その場所の「空気感」を作品にどう反映させるかがポイントになるようです。

朝来市では、この多々良木地区(「みのり館」周辺)を整備し、新たにドームハウスなどアウトドアライフ機能を充実させ、美術館と一体となった「人と自然とアートが出会う」構想を進めています。愛称は、「多々良木フォレストリゾート



大賞…岩崎順一「君は飛んだか?Ⅲ」

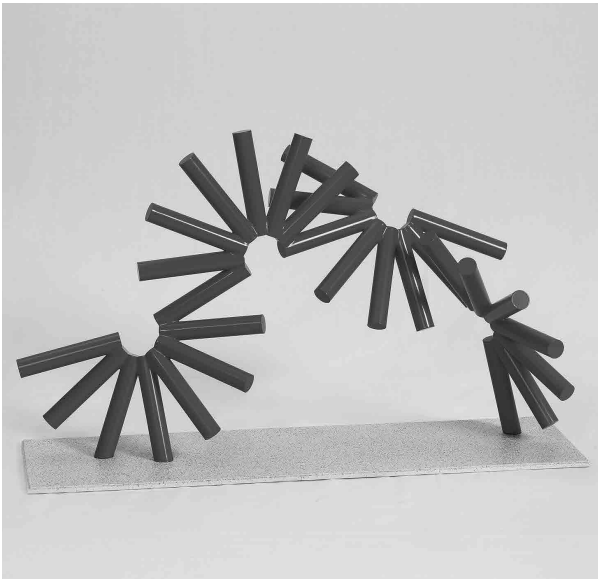
<制作意図>

子どもたちが触って登ってジャンプして遊ぶ。そんな彫刻を考えました。波が3方向からぶつかった形を表現しました。その形が飛行機に似ていたのでこの題名にしました。幼い頃、空を見上げたら、雲がいろいろなものに見えました。海の波にも、大きなクジラにもなって、いつか空と海は一緒になっていました。大人の人たちにはそんな自由な心を思い出してほしい、子どもたちには想像力の大きな翼を広げて飛んでほしい、そう思っています。

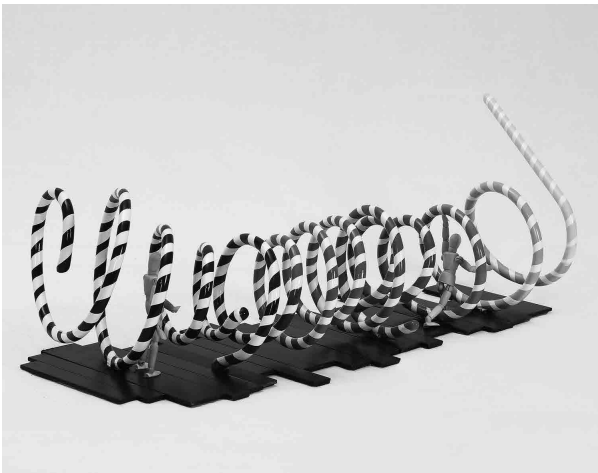
CoCoDe」です。

人と人、人と自然、人とアートが触れ合える三位一体の循環型の“異空間”として、多くの人たちが交流できる場所に生まれ変わります。このA.A.C.にとっても、新たな展開に期待が持てそうです。

多大なご尽力をいただきました審査員をはじめ、後援、協賛、協力をいただきました関係者にお礼申し上げます。



優秀賞…松本憲宜「Net」



優秀賞…増野智紀「森の入口」



優秀賞…周藤豊治「ハット・ハット・ハット」

【あさごアートコンペティション2017入賞・入選者】

○大賞	賞	君は飛んだか?Ⅲ	岩崎 順一 (東京都)
○優秀賞	賞	Net	松本 憲宜 (東京都)
		森の入口	増野 智紀 (京都府)
		ハット・ハット・ハット	周藤 豊治 (島根県)
○スポンサー賞			
但陽信用金庫賞	賞	forest	宮城 歩夢 (兵庫県)
竹泉賞	賞	らくだの国(この指とまれ)	荻野 弘一 (新潟県)
フレッシュあさご賞	賞	夢バベル	北川 太郎 (兵庫県)
○奨励賞	賞	山河賛礼ーでんでん虫とあるく	藤本 イサム (兵庫県)
		STONE・UFO	高田 治 (兵庫県)
		コバノケニ〜野兎チョッキーの街頭演説〜	平田 茂 (三重県)
		メルネム	大西 治・大西 雅子 (京都府)
○入選	選	フクキタレ・アレ?	ムト ハッカ (広島県)
		Circle of a dance II	居上 真人 (徳島県)
		なわとび	信ヶ原 良和 (京都府)
		道	仲田 守 (千葉県)
		天と地(Pillar and Tail)	谷上 満夫 (兵庫県)
		un nuage carré(むこうのここには…)	藤井 浩一郎 (東京都)
		輝く子供達	クボ 健史 (兵庫県)
		みちしるべ	竹鶴 壽男 (神奈川県)
		colony—light and darkness—	野崎 窮 (徳島県)
		森のはなし	奥田 誠一 (滋賀県)
			マルシ美術工房 (鹿児島県)
			(賞ごとに受付順)

表彰式

10月29日(日)には、あさご芸術の森美術館の展示会場で「あさごアートコンペティション」の表彰式が行われました。岩崎さんをはじめ、式典に参加した受賞者たちは、多次市長より、表彰状や副賞を受け取りました。

その後、会場内にて受賞者たちによるギャラリートークが行われ、表現技法やそれぞれの作品に対する思いの他、「毎年あさご来るのが楽しみ」と話される方もおられました。



表彰式



ギャラリートーク

第13回 全国こども絵画選抜展に 1,838点集まる

さらなる高みを目指して

「第13回全国こども絵画選抜展2017」には全国各地から1,838点の作品が寄せられ、7人の審査員によって、105点の入賞・入選が決まりました。いずれも、「花と緑」「ふるさと」というテーマに沿った、1人ひとりの思いや情感がこもった個性豊かな作品ばかり。昨年より442点多い応募は、この選抜展が全国的な広がりを見せていることを実証しています。選考に漏れた作品の中にも、入賞・入選とそん色のない作品が多くあったことを付記しておきます。それぞれ、さらなる高みを目指してほしいと思います。

この選抜展には、次のような2つの目的があります。1つは、表現する力や鑑賞する力を高め、芸術・文化に親しみをもってもらうことです。公募展ですから、描く技術はもちろんですが、着眼点や題材の面白さ、技法の工夫などを考えることで、さらに表現力が豊かになる、と思われます。審査員も「主張してくる作品」「何かを訴える作品」に目を引かれる、と言っています。それらを通して、芸術・文化に対する関心が高まり、ひいては草木花に対しての温かい気持ち、生き物に対する優しい気持ちが、大きく膨らんでくれることを期待します。

2つ目は、児童・生徒が持っている豊かな感性をさらに伸ばし、友達や家族との絆、人と自然の関わり、あるいは、古里を思いやる気持ちを一層強くしてほしいという願いです。描くということは、周囲を注意深く見る、よく観察することなので、自分と周りとの関わり、距離感が見えてきます。展覧会を通して、その才覚、郷土を思う愛情を十分にくみ取っていただけたのではと思います。

同展の表彰式が12月3日(日)午後2時、あさご芸術の森美術館2階展示室で行われました。出席した入賞・入選者60人に、文部科学大臣賞「ふるさと大賞」「花と緑の大賞」など各賞が授与されました。当美術館を広く知っていただこうと、これまでの生野メインホールから会場を戻しました。

表彰式に参列した皆さんとともに、受賞の喜びを分かち合えたことは、主催者として、大きな喜びです。ご指導の先生、審査員ほか関係者の方々に対し、厚くお礼を申し上げます。



ふるさと大賞／「馬と人」
竹内亮揮さん(兵庫県・小東山アートスクール／小学6年)



花と緑の大賞／「莓香(いちか)」
加藤ひなたさん(愛知県知立市立竜北中学校3年)

巡回展

●生野メインホール／12月9日(土)～12月22日(金)

●アートホール神戸／1月18日(木)～1月23日(火)

※アートホール神戸では会場の都合により入賞以上の作品展示となります。 ※巡回展は入場無料です。



兵庫県知事賞「私の大好きな元気なカメ」
加藤世菜さん
(兵庫県朝来市立枚田小学校4年)



兵庫県知事賞「思い出の小川」
安藤はなさん(岐阜県土岐市立泉中学校1年)



朝来市長賞「子ねこと母ねこ」
瀬井美琴さん(兵庫県・小束山アートスクール/小学3年)



朝来市長賞「茶屋の入り口」
菅原千暁さん
(宮城県涌谷町立涌谷中学校2年)

＜森はな賞＞

朝来市では、朝来市出身の児童文学作家森はなの文学普及事業を展開しています。

「全国こども絵画選抜展」をきっかけに、人や自然、ふるさとをいとおしむ心であふれた森はな作品に触れていただくことを期待して、「森はな 交流賞」と「森はな ふるさと賞」の2つの賞を設けています。



森はな 交流賞「みどりがいっぱいウェルネス」
原 由伸(兵庫県加古川市立加古川小学校1年)



森はな 交流賞「ふるさとの夕日」
五嶋琉里(兵庫県加古川市立中部中学校3年)

【朝来市内の入賞・入選者】

- ◆兵庫県知事賞
加藤 世菜/枚田小学校4年
- ◆朝来市議会議長賞
桑田祥太郎/生野中学校3年
- ◆あさご芸術の森美術館賞
西垣 遼空/枚田小学校1年
- ◆あさご芸術の森美術館友の会賞
松本 暉/梁瀬小学校6年
- ◆審査員特別賞(牛尾賞)
岩野 哲/朝来中学校2年
- ◆優秀賞
北山 志文/梁瀬小学校6年
椿野 彩葉/朝来中学校1年
- ◆佳作賞
古家 稜久/梁瀬小学校6年
- ◆森はな ふるさと賞
枚田 明大/中川小学校2年
鴨谷 桜/山口小学校2年
藤本 爽牙/梁瀬小学校3年
佐藤 敦生/生野小学校4年
小原 岳士/生野小学校4年
尾崎 紗空/梁瀬小学校5年
松岡 怜未/梁瀬小学校6年
上田 正広/生野中学校2年
(順不同)



審査会場の朝来体育館いっばいに並べられた応募作品



審査風景

開催中の
企画展

アート2018 干支展

〈会期〉2018年1月14日(日)まで 〈会場〉2階企画展示室

毎年恒例の「アート2018^{えと}干支展」を開催しています。テーマは2018年の干支「戌^{いぬ}」。絵画、彫刻、書、工芸など様々な手法を用いて作家がバラエティ豊かに干支を表現しています。期間中は作品の販売も行っています。お気に入りの作品と一緒に素敵な新年をお迎えください。

【出展者】(敬称略・50音順)

■立 体

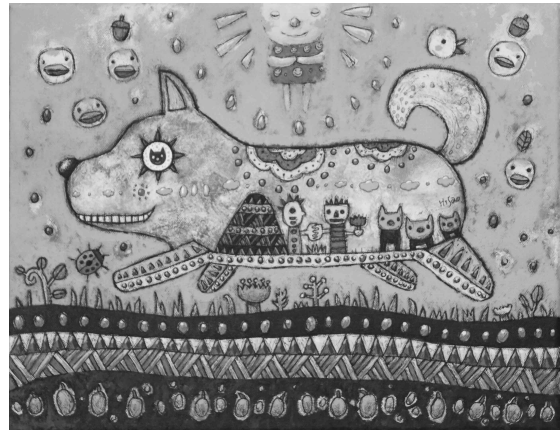
安保ゆき子、梶谷佳加、加藤真美、さかいゆきみ、佐々木紀政、杉本たけ子、蟬丸、寺田ひかり、中尾健二、藤本イサム、松尾 哲、松岡健一郎、松田一戯、松田京子、松田政斗、山本吉信

■平 面

荒木きよこ、アンドレイ ヴェルホフツェフ、生野学園、金澤麻由子、影山弘樹、上地拝碩、切目あずさ、工藤恵子、コウノ真理、小西美佐子、酒井ひさお、榊原メグミ、島田真衣、住中進吾、高砂京子、高松富士子、土屋彰男、椿野浩二、塔本賢一、栃原敏子、内藤範子、南光和玄、平位紘一、藤原正和、藤原 護、藤原洋次郎、Pen2、前田華汀、松尾あい子



中尾健二「犬」



酒井ひさお「幸せへの道」

2018 干支絵手紙コンクール 作品展 応募いただいた作品をすべて美術館で展示しています。1月14日(日)まで。

あさご芸術の森に寄せる

「楽芸員」のススメ

『アートショカン!!』。県立図書館勤務時に本とアートを結び付けた特別展のタイトルだ。アートには感動だけでなくアー!という驚きや発見があり、その刺激から想像して創造につなげることもできる。そんな思いから読書と創造、両面の活動喚起をと考えた企画だった。

本庁、文学館、ひとはく、美術館…20年程社会教育に携わり得た事の一つが自然、歴史等専門的なものはアート(表現活動)で包含する事で敷居が低くなるという事だった。そのためにはアートと見る人の間を介在する人が肝だ。美術館に関わる多様な立場の人が「楽芸員」になればいい。それはアートを誰でも気楽に楽しめ作られるモノと伝え、伝えたいモノに愛を持ち自身の仕事(=芸)を楽しむ人。ミュージアムはモノやコトを後世に伝え残すことが重要だがその時代や多様性に通底した普遍性を持った進化がないと生き残る事はできない。

人は本物に出会うことで文化度が増し目の前の風景が変わる。そんな思いで今いる学校でも人づくり・ものづくりをとアートのチカラを信じて仕事をしている。

県立尼崎工業高等学校事務長
県立人と自然の博物館(ひとはく)地域研究員

川東 丈 純



募集

～朝来からの風～

朝展

応募締め切りは、2018年1月13日(土)(必着)まで

【優秀作品展】

あさご芸術の森美術館

2018年1月27日(土)～3月11日(日)

～朝来からの風～「朝展」2018では、絵画、立体・工芸、書・画、写真の4部門の作品を募集しています。

【～朝来からの風～「朝展」2018 募集要項】

■応募期間…2018年1月13日(土)(必着)まで

■応募資格…日本在住の高校生以上

■応募点数…1部門につき1点

■出品料…1点につき1,000円(大学生・高校生は500円)

■申込方法…応募期限までに出品申込書に必要な事項を記載の上、出品料を添えて、和田山ジュピターホール内芸術文化課、またはあさご芸術の森美術館まで持参か郵送してください。

■作品部門

◎絵画

日本画、洋画などの平面作品。10号以上で、1辺116.7cm以内。額装(5cm以内)し、吊り金具とひもを取り付けること。

◎立体・工芸

彫塑、工芸作品。高さ150cm(台座含む)以内で、床面積2㎡以内。人力で運搬可能な作品。

◎書・画

書、篆刻、水墨画などで全紙以内。額装、枠張り、または軸装。

◎写真

写真作品で縦横合わせて140cm以内。額装またはパネル張り。

※作品規定の詳細は募集要項で確認してください。

■審査員(敬称略)

絵画…岸野裕人(美術評論家・姫路市立美術館館長)

山田美耶子(日本画家・兵庫県日本画家連盟理事長)

立体・工芸…友定聖雄(ガラス工芸作家・神戸芸術工科大学教授)

書・画…牛丸好一(兵庫県書作家協会参事・神戸新聞習字紙上展選者)

写真…森井禎紹(二科会写真部理事長・兵庫県写真作家協会最高顧問)

吉野晴朗(写真家・日本写真家協会会員)

■賞

◎朝展大賞／各部門1点、副賞50,000円

◎朝展準大賞／各部門1点、副賞30,000円

◎朝展奨励賞／若干名、副賞20,000円

◎朝来市教育委員会賞／各部門1点

◎朝来市文化協会賞／各部門1点

◎あさご芸術の森美術館友の会賞／若干

◎入選／各部門20点程度

■展覧会

◎あさご芸術の森美術館

1月27日(土)～3月11日(日)

午前10時～午後5時

※最終日は表彰式のため午後3時まで。

※今年は、さんとう緑風ホールでの展示はありません。

■募集要項の取り寄せ・問い合わせ…出品には申込書(募集要項)が必要です。あさご芸術の森美術館のホームページからダウンロードするか、郵送希望の場合は、140円切手を貼った返信用封筒を同封の上、「朝展要項希望」と書いて美術館へお送りください。

朝来市ホームページ

<http://www.city.asago.hyogo.jp>

NEWS トピックス

ASAGO ART VILLAGE



夏のチャイルドアートキャンプ① 謎の講談師現る!

7月28日(金)～29日(土)に開催したチャイルドアートキャンプ①では、ジェルを使ったオリジナルのキャンドル作りに挑戦し、海の中をイメージした作品を作りました。

イラスト教室と廃材を使った鉄くずアートでは、謎の講談師・アマッコ堂ちんげんさいと、その弟子アマッコ堂さきえもんに加え、忍術学園? (尼崎工業高校)の校長が指導。イラストでは自分オリジナルのさまざまなキャラクターデザインを考え、それにあわせたキャラ設定も作り、たくさんの新キャラクターが誕生しました。鉄くずアートでは、班の仲間と協力し、意見を交わしながら、一つの鉄くずによる異空間的な作品を作っていました。

また合宿先では、ちんげんさいと、さきえもんによる講談が行われ、参加した子どもたちもそれぞれのキャラクターになって楽しんでいました。



夏のチャイルドアートキャンプ② 新種の魚発見!?

8月4日(金)～5日(土)に開催したチャイルドアートキャンプ②では、平面造形作家・椿野浩二氏を講師に迎え、流木アートと陶芸による魚作りに挑戦しました。

流木アートでは、流木特有の形や色を生かして、大小さまざまな流木を組み合わせて、オリジナルの魚を作りました。台に設置した魚のオブジェや天井から吊るしたり、部屋のインテリアになりそうなバラエティーに富んだ魚など、思い思いの作品を作りました。

陶芸教室では粘土をこねて魚の陶芸作品作りにチャレンジしました。口の大きな魚や、たくさん針の生えた魚など、今まで見たこともない、オリジナリティーあふれる魚が大量に姿を現し、まさに新種発見! の現場に立ち合えました。



アートDE遊ぼう! 素敵な作品が完成

8月4日(金)～6日(日)の3日間、毎年恒例の「アートDE遊ぼう!」が開催されました。

たくさんの材料の中から、使いたい材料を選び作品作りに挑戦しました。また、使い慣れない道具や素材の加工方法に苦戦しながらも、講師陣の指導や助言に加え、家族の協力によって素敵な作品を完成させていきました。

織体験では、本格的な織り機や、卓上織り機等を使って思い思いの糸を選んで素敵な布を織りあげていきました。





親子でテラコッタに挑戦！ 素敵な植木鉢が出来ました。

7月22日(土)にテラコッタ(赤土粘土)を使った植木鉢作りに挑戦しました。当日は思い思いのデザインを考え、テラコッタ粘土を使って形にしてみました。

最初は慣れない粘土に苦戦している場面もありましたが、家族が協力して、それぞれ個性的で素敵な素焼きの植木鉢が完成しました。

スタンダードな植木鉢から、分厚くてどっしりとした植木鉢、また花や虫、鳥などの自然の物を取り入れた作品など、さらには植木鉢にロボットがくっついた作品など、お店では買えないようなそれぞれの個性が生きた植木鉢が完成しました。



発砲スチロールで、 でっかい!?魚作っちゃお!

7月23日(日)に発砲スチロールを使って自由に魚を作ってみました。大きな発砲スチロールの板に戸惑っていましたが、魚のイメージを考えていくうちに、それぞれが板いっぱい描くことができました。

また、普段使わない発砲スチロールカッターの電熱器に最初は心配そうでしたが、慣れてくると自由自在に使いこなしていました。余った部分を上手に利用して、背びれや胸びれなど、より立体的になるよう工夫していました。最後に色を付けていきましたが、事典を見ながら忠実に着色するこどもや、夢で見たことあるような七色の魚など、それぞれの個性が生きた作品となりました。



家族でわいわい。 こっばで好きにつくっちゃえ!

8月11日(金)にいろいろな形や大きさの木っ端(木切れ)を使った、ワークショップを実施しました。

山のように積まれた木っ端の周りでは、あれでもない、これでもない、裏返したり、積み重ねてみると、試行錯誤を繰り返していました。

気に入った木っ端やイメージが完成すると、いろいろな形の木っ端を動物や魚に見立てて色を塗った作品や、家族と相談しながら作った大きな木っ端のオブジェなど、本来捨てられてしまうような木っ端が、新たな作品として子どもたちの手で芸術作品に生まれ変わりました。





親子・家族のワークショップ おそろいグラスDE乾杯!!

8月12日(土)に親子・家族参加型のワークショップとしてガラスルーティング(象がん絵付け)を実施しました。

同じ絵柄を描く家族もいれば、それぞれが自分の好きな絵柄を描く家族もありました。

最初はルーターの勢いに負けて、思うように線が引けない子どももいましたが、そこは家族の力で素敵な作品を作り上げていました。完成した作品で素敵なひと時を楽しんだことと思います。

但馬まるごと感動市へ 出張ワークショップ

11月11日(土)と12日(日)の2日間、全但バス但馬ドーム(日高町)での但馬まるごと感動市で、美術館のPRとして出張ワークショップを実施しました。

ブースでは、オリジナル缶バッジ作りとガラスルーティング体験を行い、ブース内にお客さんが入り切らなくなる場面もあるほどの盛況でした。

また、会場内では作った缶バッジを早速胸やバッグに付けて、各ブースを見て回る子どもたちもありました。とても有意義なPRになったのではないのでしょうか。



チャイルドアートキャンプ ハロウィンキャンドルナイト!

10月21日(土)・22日(日)にハロウィンにちなんで、テラコッタ(赤土粘土)を使ってジャック・オー・ランタン(かぼちゃの西洋妖怪)とお化けのキャンドル作りに挑戦しました。個性あふれるかぼちゃのキャンドルと、それぞれが思い描くさまざまなお化けが出来ました。

お化けらしいお化けや、花を持ったかわいいお化け。中には剣やつえなどの武器を装備したお化けなど、たくさんのお化けが誕生しました。

また、ハロウィンガーラント作りにも挑戦しました。発泡スチロールに好きな絵を描いて、絵の形に添って切り取った作品の紐を通したら、部屋に飾る素敵なインテリアとなり、ハロウィン一色の2日間となりました。



2017震災復興支援 チャリティー作品展

11月17日(金)～19日(日)の3日間、あさご芸術の森ギャラリー四季彩でチャリティー作品展が開催されました。

この展覧会は友の会の椿野浩二氏らが発起人となり、2011年から震災復興支援を目的に開催しています。開催期間中の売り上げの一部や、来場者から直接募金のあった義捐金を被災地復興に役立てます。

今回も趣旨に賛同した絵画・彫刻・陶芸・染色・竹紙・皮革・書・銀細工・写真等様々なジャンルの12人の作家の作品が集まりました。会期中、来場者たちは作品をみながらお気に入りの作品を購入したり、出品者と芸術談義を楽しみました。

会期中は約200人が訪れ、会期中の売り上げの一部と寄付金あわせて、62,000円が義捐金となりました。





会員の日ごろの創作成果披露と、相互の交流を目的に。

あさご芸術の森美術館友の会会員交流美術展 作品募集!

■応募要項

- ◇平面…絵画(日本画・油彩画・アクリル画・水彩画・ミクストメディア・版画・水墨画など)・書・デザイン・写真・俳句・短歌などでオリジナルなもの。
大きさは、展示壁面の横幅が一辺120cm以内(額を付けたサイズ)なら複数出品可。上下2段掛け、3段掛けなど展示可。
 - ◇立体…彫刻・工芸(陶・染織・タペストリー・ガラス・人形・ちぎり絵・木工・竹細工・手芸・編み物・粘土細工ほか)などでオリジナルなもの。
生花・盆栽など生ものは不可。大きさは、高さ200cm×横200cm×奥行200cm以内で、人力で運べるものなら複数出品可。
 - ※規定の展示サイズを超える作品は受け付けしません。
 - ※オリジナルとは、制作者の独創性のこと。他者が制作した作品などの模写・模造は著作権侵害になります。制作者の没後50年間は著作権が保護されています。
 - ◇出品料…上記サイズ以内は500円。ただし、直接搬入・搬出ができる出品者で、展示・搬出作業の手伝いが可能な人は無料。
※作品の損害保険は個人で掛けること。
 - ◇出品申し込み…2018年2月9日(金)まで
 - ◇搬入…2018年2月22日(木)10:00~16:00・23日(金)10:00~12:00
※委託搬入の場合は、2月22日必着。作者が元払いで送ること。
 - ◇搬出…2018年3月12日(月)・13日(火)10:00~16:00
※委託搬出の場合は、搬入時に着払い票を添付すること。
- 会員交流美術展会期・会場…2018年2月24日(土)~3月11日(日) / あさご芸術の森美術館アトリエ室

あさご芸術の森美術館友の会 会員の近況

★磨野郁子

第57回新作家集団展 / 2018年1月16日(火)~1月21日(日) / 京都市美術館別館
木になるアート作品展 / 2017年11月3日(金)~11月30日(木) / アートギャラリー博宝堂
2018「視覚反応実験展」[SILVER] / 2018年1月26日(金)~1月31日(火) / スペース妙

★和田誠一郎

最近「焼き物」に凝っています。有田、美濃、瀬戸、備前、丹波、萩などの焼き物の里を訪ね、関西の陶芸美術館に行き、学芸員と交流しています。人間国宝の陶芸家と知り合いになる事もあり、楽しく歩いています。「焼き物」は自然も炎が作るロマンもあり、茶碗のいわれも興味が深く、休日にはのんびり焼き物の里を歩くこのごろです。

★椿野浩二

9月2日~18日、大宮のアルピーノ銀花(友の会法人会員)にて、40年ぶりに学生時代の仲間とグループ展「集い」を開催。多くの先輩、知人、友人に助けられ、久しぶりに楽しい時間を持ちました。素人の展示でしたが、考えさせられる事も多く、美術館運営にも参考になるものでした。プロのみの展示でなくても良い展覧会はできるかもと。

館長おすすめミステリー

万城目学 著「城崎裁判」

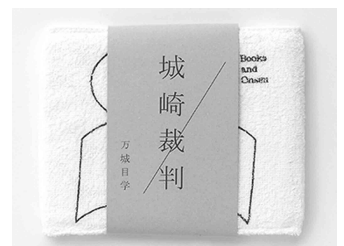
イモリを通し創作の原点を問う

「判決を伝える。被告は一有罪」。イモリの裁判長が「私」に判決を下した。冗談だろう、何もしていないのに。ただ、湯治に來ただけではないか。なぜだ。

「私」は小説家。筆が全く進まず、気分転換に城崎温泉へ。浸かった「鴻の湯」の灯籠の陰からイモリが顔を出し「お前は悪いことをした」と断罪。「まんだら湯」では、幕末の志士桂小五郎(木戸孝允)が「お前も追われているのか」と尋ねる。コウノトリが「タンチョウ(鶴)に何もかも間違われて悲しい」と言って飛び立ったのが「さとの湯」。どうにかしている。心の平静が保てない。確かに。

明治の文豪志賀直哉が「城崎にて」を出したのが1907年。この「城崎裁判」は、その志賀の足跡をたどりながら、志賀直哉が投石で死なせたイモリへの「殺しの罪」と、万城目も含め小説を書くこと、創作の原点はどこにあるのかを問う摩訶(まか)不思議な物語。

浅学のため、但馬地域を舞台にしたご当地ミステリーを多くは知らない。これまでに天野節子「烙印」、梓林太郎「姫路・城崎温泉殺人街道」、野村正樹「山陰名湯く瓜子姫殺人」の3冊を紹介した。あと思いつくのは西村京太郎「城崎にて、殺人」「若狭 城崎殺人ルート」ぐらいか。(2014年・NPO法人 本と温泉 刊)



万城目学 著「城崎裁判」

スケジュール 2017.12 → 2018.3

ASAGO ART VILLAGE

月	日	曜	内 容	対 象	期間・時間など	掲載ページ
12	開催中		アート2018 千支展	一 般	1月14日まで	6
			第11回写真公募展〜こどもの世界“愛”	一 般	12月24日まで	
			全国こども絵画選抜展 巡回展(生野メインホール)	一 般	12月22日まで	4
募集中			朝来からの風「朝展」作品募集	一 般	1月13日まで	7
1	6	土	千支絵手紙コンクール作品展	一 般	1月14日まで	6
	18	木	全国こども絵画選抜展 巡回展(アートホール神戸)	一 般	1月23日まで	6
	27	土	朝来からの風「朝展」優秀作品展	一 般	3月11日まで	7
2	24	土	あさご芸術の森美術館友の会会員交流美術展	一 般	3月11日まで	11
3	11	日	朝来からの風「朝展」表彰式	受賞者	午後3時～	7

淀井制作の鬼瓦、守り神としてホテル玄関に設置。

彫刻家淀井敏夫(1911～2005年)が制作した魔よけの鬼瓦2体1対が12月7日(木)、神戸市中央区波止場町の神戸メリケンパークオリエンタルホテルの正面玄関を挟んだ左右の壁にはめ込まれ、関係者が出席し除幕式が行われた。

鬼瓦の大きさは、いずれも高さ約180cm、横幅約160cm、奥行き約40cm、FRP(繊維強化プラスチック)製で金色に塗られている。日本最古といわれた旧オリエンタルホテルが1964年、同区京町へ新築・移転した際、風水による鬼門に飾るため、「阿(あ)・吽(ん)」の形相で作られた。東京芸大で教えていたころの作品で、迫力がみなぎり、存在感が漂う。

95年の阪神・淡路大震災で同ホテルは壊滅的な損傷を受け、廃業を余儀なくされたが、鬼瓦は奇跡的に「救出」され、メリケンパークのオリエンタルホテルに引き取られ、しばらく倉庫に保管されていた。

2015年に、敏夫の甥(おい)淀井淳司さんと当美術館が点検・調査したが大した損傷もなく、「淀井作品としては珍しい、貴重なもの。眠らせているのはもったいない。何かのきっかけに表に出したら」とアドバイス。

今年が神戸港開港150年の節目に当たり、また、同ホテルのリニューアルとも重なったため、「神戸の平和を守るシンボルとして役に立てば」と玄関両脇に設置することを決めた。

除幕式は、平安祈願神事のあと、同ホテルの荒木潤一総支配人や日本画家岡田嘉夫さん、淀井家から長女彩子さん、次女由利子さん、淳司さんの5人が綱を引き、鬼瓦をお披露目した。



鬼瓦 阿形



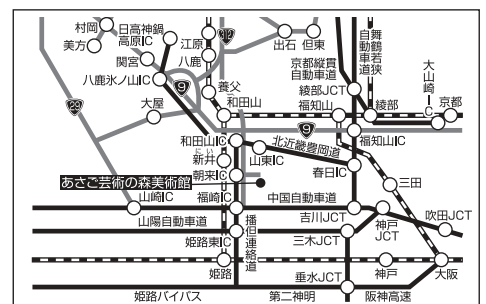
鬼瓦 吽形



あさご芸術の森美術館

ASAGO ART VILLAGE

〒679-3423 兵庫県朝来市多々良木739-3
TEL(079)670-4111 FAX(079)670-4113
http://www.city.asago.hyogo.jp/
E-mail : art-village@city.asago.lg.jp



【年末年始の美術館】

美術館は12月25日(月)から1月5日(金)まで休館します。
2018年は1月6日(土)から開館します。